

## 2020年度 研究科教育改善計画

研究科名	看護学研究科
研究科長名	高橋和子

<b>1-(1). 2019年度実施の研究科アンケート結果を踏まえ、研究科で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。</b>					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課題</td> <td style="padding: 5px;">看護実践と研究を結び付けられる能力の向上を図る。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td style="padding: 5px;">本学研究科の院生は、ほとんどが社会人入学であり、看護実践での問題や課題として捉えていることはあるが、研究の問いとして、言語化することに苦慮している現状がある。</td> </tr> </table>	課題	看護実践と研究を結び付けられる能力の向上を図る。	理由	本学研究科の院生は、ほとんどが社会人入学であり、看護実践での問題や課題として捉えていることはあるが、研究の問いとして、言語化することに苦慮している現状がある。
課題	看護実践と研究を結び付けられる能力の向上を図る。				
理由	本学研究科の院生は、ほとんどが社会人入学であり、看護実践での問題や課題として捉えていることはあるが、研究の問いとして、言語化することに苦慮している現状がある。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課題</td> <td style="padding: 5px;">学修の機会の確保と研究指導體制の充実を図る。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td style="padding: 5px;">勤務調整が難しく、通常の時間帯では、科目の履修が困難な院生もおり、夜間開講や、個別対応のニーズへの対応が必要である。</td> </tr> </table>	課題	学修の機会の確保と研究指導體制の充実を図る。	理由	勤務調整が難しく、通常の時間帯では、科目の履修が困難な院生もおり、夜間開講や、個別対応のニーズへの対応が必要である。
課題	学修の機会の確保と研究指導體制の充実を図る。				
理由	勤務調整が難しく、通常の時間帯では、科目の履修が困難な院生もおり、夜間開講や、個別対応のニーズへの対応が必要である。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課題</td> <td style="padding: 5px;">学生のニーズに応じた学修環境の整備を図る。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td style="padding: 5px;">院生室の設置しているパソコン台数の増設、コピー機の設置、図書館の利用環境等、改善を求める希望が多く、院生の不利益とならないよう、教育環境の見直しが必要である。</td> </tr> </table>	課題	学生のニーズに応じた学修環境の整備を図る。	理由	院生室の設置しているパソコン台数の増設、コピー機の設置、図書館の利用環境等、改善を求める希望が多く、院生の不利益とならないよう、教育環境の見直しが必要である。
課題	学生のニーズに応じた学修環境の整備を図る。				
理由	院生室の設置しているパソコン台数の増設、コピー機の設置、図書館の利用環境等、改善を求める希望が多く、院生の不利益とならないよう、教育環境の見直しが必要である。				
<b>1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。</b>					
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学研究科博士前期課程修士論文作成までの「道のり」を活用し、研究の進め方を確認しながら、各自で取り組むことをイメージできるように助言する。</li> <li>・博士前期課程では、1年生の前期に、研究スタートアップ報告会を行うこととし、関心のある研究論文をもとに、各自の研究の方向性をプレゼンテーションする機会を設定する。</li> </ul>				
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人院生でも参加しやすい日程等を考慮し、研究方法の理解につながるセミナー等を企画することで、多様な学修の機会を提供する。</li> <li>・主指導教員に対し、早期に、主副指導教員から、指導を受けられる体制をつくるよう周知する。</li> <li>・希望に応じて、夜間・休日対応を検討し、社会人院生においても、希望する科目を履修できるよう、調整を図る。</li> </ul>				
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院生室のパソコン等、使用状況を把握し、不足しているものは整備する。</li> <li>・学内の使用可能な施設について、使用方法の説明を受ける機会を設け、大学の資源を学修に効果的に活用できるようにする。</li> <li>・事務局と教員との連携体制を強化し、院生への連絡対応の充実を図る。</li> </ul>				

## 2020年度 研究科教育改善計画

研究科名	事業構想学研究科
研究科長名	中田 千彦

<b>1-(1). 2019 年度実施の研究科アンケート結果を踏まえ、研究科で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。</b>					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課題</td> <td style="padding: 5px;">研究科における基礎講座などの科目内容の検討。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td style="padding: 5px;">学部、学群からの進学者と社会人院生と、研究科における基礎的な学習の内容に関して、必要性、必然性に対する意識の違いが現れるケースも見受けられる。</td> </tr> </table>	課題	研究科における基礎講座などの科目内容の検討。	理由	学部、学群からの進学者と社会人院生と、研究科における基礎的な学習の内容に関して、必要性、必然性に対する意識の違いが現れるケースも見受けられる。
課題	研究科における基礎講座などの科目内容の検討。				
理由	学部、学群からの進学者と社会人院生と、研究科における基礎的な学習の内容に関して、必要性、必然性に対する意識の違いが現れるケースも見受けられる。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課題</td> <td style="padding: 5px;">毎週開講の授業形式を見直すなど、検討が必要。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td style="padding: 5px;">遠隔地からの登校や時間外の受講が望ましい社会人学生に対して、時間割や授業の進め方についての意見があった。</td> </tr> </table>	課題	毎週開講の授業形式を見直すなど、検討が必要。	理由	遠隔地からの登校や時間外の受講が望ましい社会人学生に対して、時間割や授業の進め方についての意見があった。
課題	毎週開講の授業形式を見直すなど、検討が必要。				
理由	遠隔地からの登校や時間外の受講が望ましい社会人学生に対して、時間割や授業の進め方についての意見があった。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課題</td> <td style="padding: 5px;">発表会の形式（遠隔での実施など）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td style="padding: 5px;">2020年度はCPVID-19への対応として遠隔授業や遠隔発表なども実施しているが、それらへのニーズや教育的効果について今後のさらなる検討が必要と思われる。</td> </tr> </table>	課題	発表会の形式（遠隔での実施など）	理由	2020年度はCPVID-19への対応として遠隔授業や遠隔発表なども実施しているが、それらへのニーズや教育的効果について今後のさらなる検討が必要と思われる。
課題	発表会の形式（遠隔での実施など）				
理由	2020年度はCPVID-19への対応として遠隔授業や遠隔発表なども実施しているが、それらへのニーズや教育的効果について今後のさらなる検討が必要と思われる。				
<b>1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。</b>					
①	<p>学部、学群からの進学者に対しては、基礎的、基本的な研究科における学びに関する学習機会を提供し、高度な研究に向き合うための自覚と意識を高めていく必要があることから、基礎講座などの科目構成が決定されている。社会人院生の場合、すでに社会経験を踏まえてさらに高度な研究に取り組みたいと考えて進学してくる方が多く、研究遂行のための基礎的な技術や手法（例：フィールドワークの基礎、統計学の基礎、論文の書き方、学内設備の使い方など）についての基礎知識を提供できる科目の用意なども検討する必要があると考える。課外とする余裕はなさそうな状況ではあるが、より高度な研究遂行のための下準備という観点では、重要な課題ではないだろうか。</p>				
②	<p>2020年度より本格的に始まった遠隔授業の採用により、時間（時間割や毎週開講の必要性）と場所（教室による対面実施）への制約を緩和できる可能性も見えてきている。特に研究科の場合、指導教員と学生（院生）の個人面談形式の研究指導が中心となり、それらを支える講義形式の授業展開とのバランスの良い展開が肝心となることから、従前のような時間割に従う毎週開講の授業実施といった教育方法ではない学習環境の提供の必要性も高まり、また実現可能性も高くなってきていると考えられる。今後、地方の「特色ある」研究科の教育研究の実践を視野に入れ、さらなる改善、改革について多面的な検討を進めていきたいと考えている。</p>				
③	<p>研究科の各段階での発表において、遠隔での実施の可否、またその内容の検証を進めていくことで、多様な履修方法、発表の形態、試験（口頭試問など）における学習成果の確認などについて、精査を重ねつつこれからの研究科における教育研究の方向性を考えていきたい。</p>				

## 2020年度 研究科教育改善計画

研究科名	食産業学研究科
研究科長名	西川正純

<b>1-(1). 2019年度実施の研究科アンケート結果を踏まえ、研究科で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。</b>					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; padding: 5px;">課題</td> <td style="padding: 5px;">当研究科においては、修士・博士論文をまとめるべく特別研究に重点を置いており、講義科目の開講時間・時期を含めてバランスの改善が必要である。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">理由</td> <td style="padding: 5px;">特別研究、特に実験やフィールド調査は終日の作業となることが多いので、講義の時間帯とのすり合わせが十分行えていない可能性がある。また、隔年開講の科目が多いことから、履修時期に偏りが生じている可能性がある。</td> </tr> </table>	課題	当研究科においては、修士・博士論文をまとめるべく特別研究に重点を置いており、講義科目の開講時間・時期を含めてバランスの改善が必要である。	理由	特別研究、特に実験やフィールド調査は終日の作業となることが多いので、講義の時間帯とのすり合わせが十分行えていない可能性がある。また、隔年開講の科目が多いことから、履修時期に偏りが生じている可能性がある。
課題	当研究科においては、修士・博士論文をまとめるべく特別研究に重点を置いており、講義科目の開講時間・時期を含めてバランスの改善が必要である。				
理由	特別研究、特に実験やフィールド調査は終日の作業となることが多いので、講義の時間帯とのすり合わせが十分行えていない可能性がある。また、隔年開講の科目が多いことから、履修時期に偏りが生じている可能性がある。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; padding: 5px;">課題</td> <td style="padding: 5px;">研究室・実験設備などのスペースが少ない</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">理由</td> <td style="padding: 5px;">開学時から学群主体の研究室・実験設備となっており、大学院研究科設置時に研究室・実験施設等が整備できなかったことが理由である。</td> </tr> </table>	課題	研究室・実験設備などのスペースが少ない	理由	開学時から学群主体の研究室・実験設備となっており、大学院研究科設置時に研究室・実験施設等が整備できなかったことが理由である。
課題	研究室・実験設備などのスペースが少ない				
理由	開学時から学群主体の研究室・実験設備となっており、大学院研究科設置時に研究室・実験施設等が整備できなかったことが理由である。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; padding: 5px;">課題</td> <td style="padding: 5px;">学修に必要な図書・文献等のダウンロードなどによる入手が難しい。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">理由</td> <td style="padding: 5px;">東北大学などの他大学と違い、ダウンロードできる電子ジャーナルなどへの対応が遅れている。</td> </tr> </table>	課題	学修に必要な図書・文献等のダウンロードなどによる入手が難しい。	理由	東北大学などの他大学と違い、ダウンロードできる電子ジャーナルなどへの対応が遅れている。
課題	学修に必要な図書・文献等のダウンロードなどによる入手が難しい。				
理由	東北大学などの他大学と違い、ダウンロードできる電子ジャーナルなどへの対応が遅れている。				
<b>1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。</b>					
①	本課題については、9月の教員会議・研究科教授会、学類（学科）会議で情報の共有化を図る。隔年開講の科目の配置時期については研究科教務委員会に検討を依頼する。				
②	研究棟の各階にフロアマネージャーを任命して未使用の教員研究室を大学院生用に充てる作業を依頼する。また、大学院生の実験施設等については、学生実験棟の実習室などを改修して実験室とすると共に、次期中期計画に大学院教育の充実を掲げ、早い時期での実験施設の拡充に努める。				
③	本課題については、各種電子ジャーナルとの契約で解決するが、多大な経費が必要となることから、次期中期計画に予算等を盛り込むことが可能か検討する。				